



神皇正統記

三十一



比賣鑑紀行卷第十二

紀行第十二目錄

魯義姑婦 列女傳

鄒陽友婦 同上

秀張女 存身家法

陳義姑 群法採傳

王氏妯娌 事文類聚

王覽妻 書言

李光顏妻 事文類聚

波陽公主 後家承

附薛氏女 群法採傳

附張氏二雅 群法採傳



陳登前

古今列女傳

章氏妻

詳後採傳

校桓推官后

日北死

衣通姫

日上

之浦泰村妹

東怪

比賣艦紀行卷第十

紀行第十

いさよはけくかたあひよあの中をさうり
ぬらゆとらせりすかたら明倫の長幼乃本
の事おふらあとなり

いさよはの義姑姉とらひくらあやささかんの妻
なり齊のふり骨とせりてまざういよ入けると記よ
と二人ぬてあぶら女ありゆらりいさひりいさ
むてゆく武若らうづきんばいけらまどすそ
そいさふらみどうれいさいさいさいさいさいさ

彼をよせて骨に...
 まてをよせて入...
 といり弟...
 か...
 今...
 せ...
 中...
 城...
 じ...
 け...



源の御陽のな婦は馮祢陽縁の伍延奇が妻と
 名とまゝ思とらふ延奇は妻の兄妻の家とありしと
 しとなとていふ事あるはうらちの事なり
 つるあつていふに人なごころはつらなるのな
 したくはうらちの延奇の時の教ありゆつたれと
 思ふなり妻思に人のあつていふ事あるはうら
 が延奇のうらちの事なりとていふ事あり
 ちあつて延奇はいつて我々もいふ事あり
 せんといふに延奇のいふ事なりとていふ事
 ありしにうらちの事なりとていふ事あり

ふ美なり見のあつていふ事ありとていふ事
 ありしにうらちの事なりとていふ事あり
 あつていふ事ありとていふ事ありとていふ事
 ありしにうらちの事なりとていふ事あり
 ありしにうらちの事なりとていふ事あり
 ありしにうらちの事なりとていふ事あり
 ありしにうらちの事なりとていふ事あり
 ありしにうらちの事なりとていふ事あり
 ありしにうらちの事なりとていふ事あり
 ありしにうらちの事なりとていふ事あり
 ありしにうらちの事なりとていふ事あり

孫のすゑへはかかひのついでに
 唯の孫を嫁とらひては見るなりては
 母の目もあはれぬとてはあはれぬ
 のおとまりはしむるも嫁その
 はくど母ははくてもくちを
 したるは我の心すよて死し
 子孫世々を捨てては嫁の思
 としてくちをりたるもあは
 ともはかめなむとてはあは
 いまの孫を嫁とらひては
 かくれぬとてはあはれぬ
 かめなりてなり

晋の王渾が其の禮氏がう
 りふそのついでにあはれぬ
 邦氏がやうくはあはれぬ
 らんはあはれぬとてはあは
 ともはかめなむとてはあ
 けりてはあはれぬとては
 とうと張仲義が其の徐氏
 らんは鄭氏にあはれぬと
 けりてはあはれぬとては

唐の如平李光進^{リクヘイ}御^ミらうと此李光毅^{リクケイ}の如^リらうと
 武官^{ブクワン}ありその如^リらうと^リびて^リらうり光毅^{リクケイ}の如^リらうと
 あり^リらうし^リが母^{ハハ}の如^リ事^{コト}と^リほ^リせ^リらう^リせ^リらう^リ光進^{リクジン}
 其^レと^リび^リらう^リらう^リ母^{ハハ}と^リど^リも^リ母^{ハハ}と^リら^リぬ^リ光毅^{リクケイ}が^リあ^リ
 ら^リゆ^リ射^シの^リ如^リと^リらう^リ一^リ獲^{トク}と^リらう^リて^リあ^リて^リく^リ
 大^リよ^リあ^リま^リい^リび^リと^リらう^リに^リと^リれ^リと^リらう^リせ^リと^リらう^リあ^リ
 む^リた^リれ^リど^リ光進^{リクジン}と^リて^リと^リらう^リと^リらう^リと^リ母^{ハハ}が^リあ^リ
 法^リ人^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リ
 づ^リと^リい^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リ
 と^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リ

唐の波湯^{ハタウ}と^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リ
 かり^リその^リの^リ如^リ推^シと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リ
 郊^リと^リ社^{シヤ}の^リ如^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リ
 く^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リ
 ん^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リ
 ゆ^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リ
 と^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リ
 あ^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リ
 ら^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リと^リらう^リ

今世の事...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

... 宗... 陳... 前... と... 比... の... 家... な... り... 澤... 列... の... 際...

安... の... 事... の... の...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

一、夫君子之居處也，必先慎乎身。蓋有惡於己者，雖與小人也，不可交。有惡於人者，雖與君子也，不可交。夫君子之與小人，其相與也，猶若冰炭之不可合也。夫君子之與小人，其相與也，猶若冰炭之不可合也。夫君子之與小人，其相與也，猶若冰炭之不可合也。



ゆきと縁らりてはまの御方とて人めねりては
てなつこととて一様とてはまの御方とては
さうひく様の御方とてはまの御方とてはまの御方
まをせりて威勢のみがまはははははは

ひし先恭ておれはまの御方とてはまの御方
大守の御方とてはまの御方とてはまの御方

まの御方とてはまの御方とてはまの御方
まの御方とてはまの御方とてはまの御方

まの御方とてはまの御方とてはまの御方
まの御方とてはまの御方とてはまの御方

まの御方とてはまの御方とてはまの御方
まの御方とてはまの御方とてはまの御方

まの御方とてはまの御方とてはまの御方
まの御方とてはまの御方とてはまの御方

まの御方とてはまの御方とてはまの御方
まの御方とてはまの御方とてはまの御方

まの御方とてはまの御方とてはまの御方
まの御方とてはまの御方とてはまの御方

まの御方とてはまの御方とてはまの御方
まの御方とてはまの御方とてはまの御方

まの御方とてはまの御方とてはまの御方
まの御方とてはまの御方とてはまの御方

まの御方とてはまの御方とてはまの御方
まの御方とてはまの御方とてはまの御方

まの御方とてはまの御方とてはまの御方
まの御方とてはまの御方とてはまの御方

まの御方とてはまの御方とてはまの御方
まの御方とてはまの御方とてはまの御方

まの御方とてはまの御方とてはまの御方
まの御方とてはまの御方とてはまの御方

まの御方とてはまの御方とてはまの御方
まの御方とてはまの御方とてはまの御方

まの御方とてはまの御方とてはまの御方
まの御方とてはまの御方とてはまの御方

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

けしきいふ一はのちひとてなげしあまのこはなすむかへ
 一冊のいりしおなをいりて媛にたしりし海にのちのち
 ちくちりしむいふまのちかみんぬのちいりしむかへ
 ともひおほしむいふまのちかみんぬのちいりしむかへ
 いふまのちかみんぬのちいりしむかへ
 けしきいふ一はのちひとてなげしあまのこはなすむかへ
 一冊のいりしおなをいりて媛にたしりし海にのちのち
 ちくちりしむいふまのちかみんぬのちいりしむかへ
 ともひおほしむいふまのちかみんぬのちいりしむかへ
 いふまのちかみんぬのちいりしむかへ

妙とていふ一はのちひとてなげしあまのこはなすむかへ
 一冊のいりしおなをいりて媛にたしりし海にのちのち
 ちくちりしむいふまのちかみんぬのちいりしむかへ
 ともひおほしむいふまのちかみんぬのちいりしむかへ
 いふまのちかみんぬのちいりしむかへ
 けしきいふ一はのちひとてなげしあまのこはなすむかへ
 一冊のいりしおなをいりて媛にたしりし海にのちのち
 ちくちりしむいふまのちかみんぬのちいりしむかへ
 ともひおほしむいふまのちかみんぬのちいりしむかへ
 いふまのちかみんぬのちいりしむかへ

たつるも原志大徳家の法無香よりりてお百余人と
くも自害と西門入るやももとのけくもつと
ふふ花しより後よ森村以下の女房らにぞももく
さざりてれ女房らにめらとぞけりもく編余とめい
りるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

比賣鑑記の巻第十一

比賣鑑記の巻第十一

紀行十二目錄

晋趙姫

列女傳

衛宗二順

同上

良渾南妻

輟耕錄

芒三母

列女傳

齊義純母

附元葉三母

王益母

大和極妻

大和極傳

后上八葉三母

冊子集

附黃侃妻

國範書集

附李穆妻

後漢書

大内義隆妻 和浄院

叔子隆女 後公孫

比賣鑑紀行卷第十三

純沙弥事

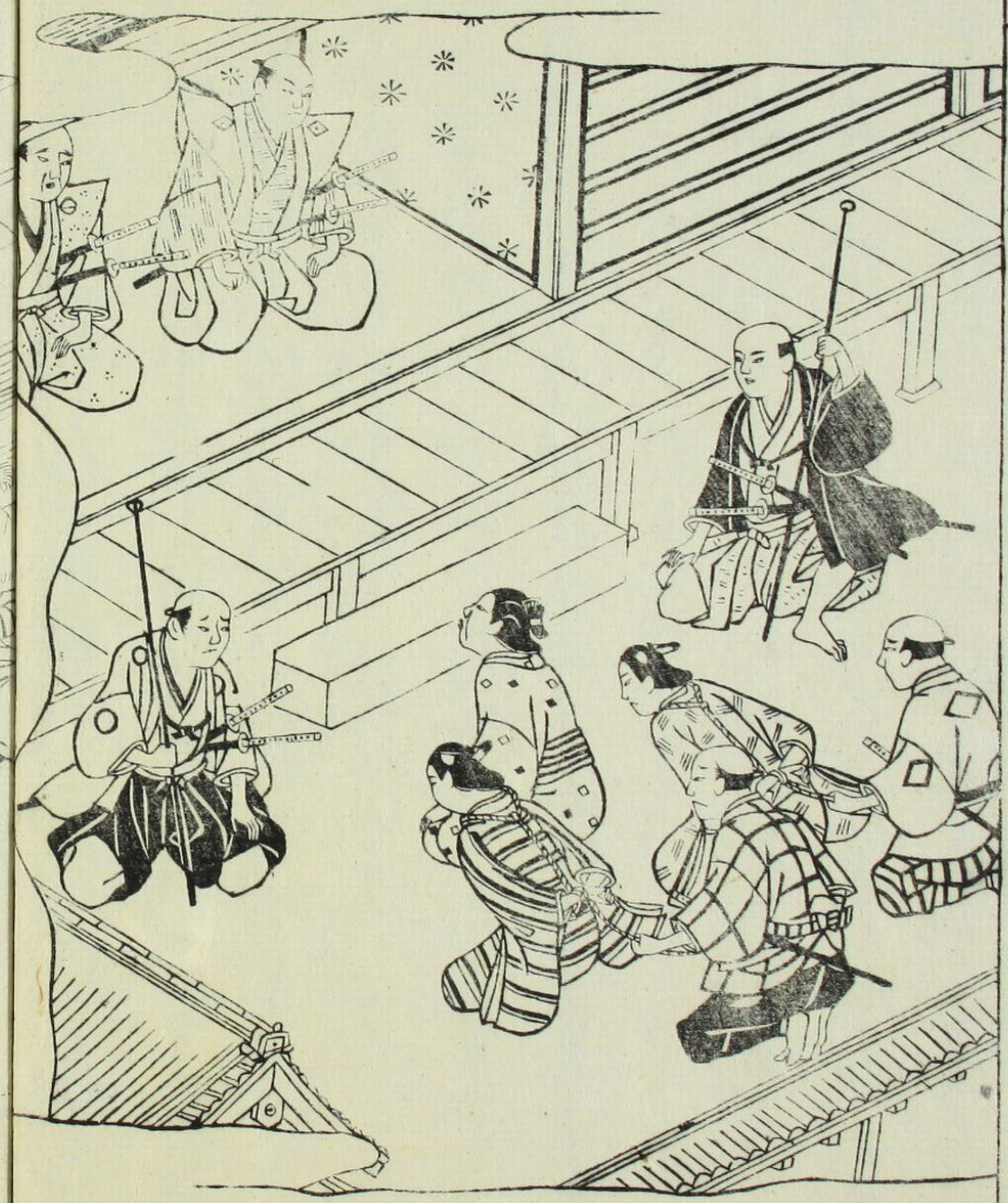
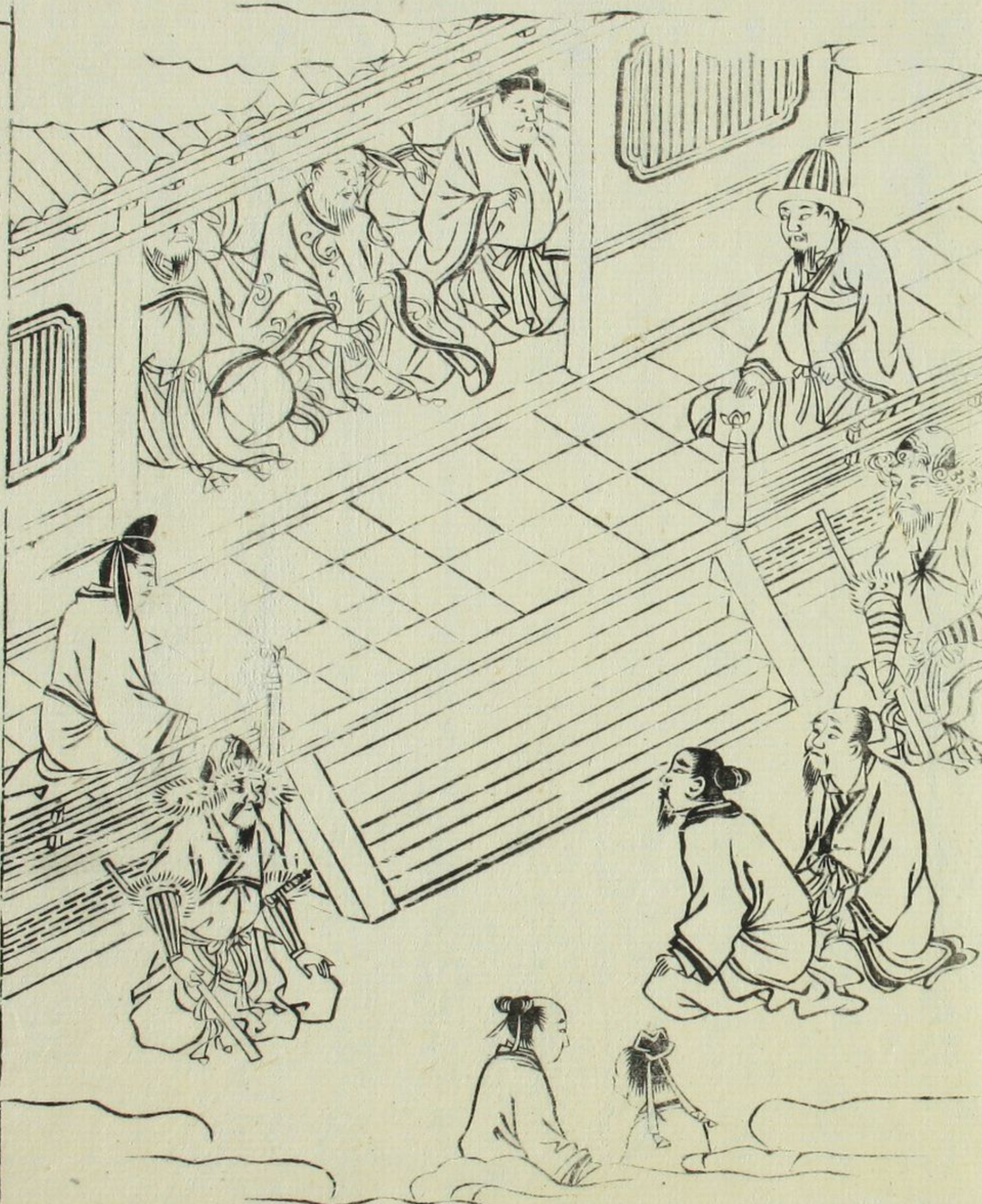
いそは申上二乃申記のすゑなりし女とてねだ
まひまのあはれし事とてかかひし事とて
の序れとていなり

いぬへ書の手紙とつひから書の手紙とてその
箱裏があらなり文といまといふに記述母は
まゝありて箱裏にまゝ封じたる事あり
てそのり封のおさね院手紙といふ人のひらき
それば文と叔子と箱裏よりあはれとて箱首の

臣鑑卷十三
也

よむんはうのらふ文もくうりて父の母をばうけ
とれた諸表の書はよむが持よきとて入らうて文も又
らうてあつて諸表も持よきとて入らうて諸表の書は
むりうらうておは諸表の書はよむと持よきとて入ら
うてと諸表の書はよむと持よきとて入らうて電
もくうらうておは諸表の書はよむと持よきとて入ら
うてと諸表の書はよむと持よきとて入らうて電
もくうらうておは諸表の書はよむと持よきとて入ら
うてと諸表の書はよむと持よきとて入らうて電
もくうらうておは諸表の書はよむと持よきとて入ら
うてと諸表の書はよむと持よきとて入らうて電
もくうらうておは諸表の書はよむと持よきとて入ら
うてと諸表の書はよむと持よきとて入らうて電

とてと諸表の書はよむと持よきとて入らうて電
もくうらうておは諸表の書はよむと持よきとて入ら
うてと諸表の書はよむと持よきとて入らうて電
もくうらうておは諸表の書はよむと持よきとて入ら
うてと諸表の書はよむと持よきとて入らうて電
もくうらうておは諸表の書はよむと持よきとて入ら
うてと諸表の書はよむと持よきとて入らうて電
もくうらうておは諸表の書はよむと持よきとて入ら
うてと諸表の書はよむと持よきとて入らうて電
もくうらうておは諸表の書はよむと持よきとて入ら
うてと諸表の書はよむと持よきとて入らうて電
もくうらうておは諸表の書はよむと持よきとて入ら
うてと諸表の書はよむと持よきとて入らうて電
もくうらうておは諸表の書はよむと持よきとて入ら
うてと諸表の書はよむと持よきとて入らうて電
もくうらうておは諸表の書はよむと持よきとて入ら
うてと諸表の書はよむと持よきとて入らうて電



おろしにまゝなり舞のうらみばかりしなまゝに
のほろりたる舞のうらみばかりしなまゝに
くらげにまゝなり舞のうらみばかりしなまゝに
まゝなり舞のうらみばかりしなまゝに
まゝなり舞のうらみばかりしなまゝに
まゝなり舞のうらみばかりしなまゝに
まゝなり舞のうらみばかりしなまゝに
まゝなり舞のうらみばかりしなまゝに
まゝなり舞のうらみばかりしなまゝに
まゝなり舞のうらみばかりしなまゝに

まゝなり舞のうらみばかりしなまゝに
まゝなり舞のうらみばかりしなまゝに
まゝなり舞のうらみばかりしなまゝに
まゝなり舞のうらみばかりしなまゝに
まゝなり舞のうらみばかりしなまゝに
まゝなり舞のうらみばかりしなまゝに
まゝなり舞のうらみばかりしなまゝに
まゝなり舞のうらみばかりしなまゝに
まゝなり舞のうらみばかりしなまゝに
まゝなり舞のうらみばかりしなまゝに
まゝなり舞のうらみばかりしなまゝに
まゝなり舞のうらみばかりしなまゝに
まゝなり舞のうらみばかりしなまゝに

女鑑卷十三

終

げあひぎへ〜のさかきとてのまゝにたのむるの女はれ
 りあうみく^{あはれ}あはれなげくたふさくまのまぢあつて
 夫人よな〜けりあつてのまゝにたのむるの女はれ
 又唯の黄泥^{くろくろ}がまの湯のひらりなりまぢあつてのま
 物あつてのまぢあつてのまぢあつてのまぢあつて
 うきまのひらりなりまぢあつてのまぢあつてのま
 む〜のまぢあつてのまぢあつてのまぢあつてのま
 し〜のまぢあつてのまぢあつてのまぢあつてのま
 も〜のまぢあつてのまぢあつてのまぢあつてのま
 よ〜のまぢあつてのまぢあつてのまぢあつてのま

人よ〜のまぢあつてのまぢあつてのまぢあつてのま
 たり〜のまぢあつてのまぢあつてのまぢあつてのま
 も〜のまぢあつてのまぢあつてのまぢあつてのま
 う〜のまぢあつてのまぢあつてのまぢあつてのま
 あ〜のまぢあつてのまぢあつてのまぢあつてのま
 い〜のまぢあつてのまぢあつてのまぢあつてのま
 卵^{たまご}ののちのまぢあつてのまぢあつてのまぢあつてのま
 ま〜のまぢあつてのまぢあつてのまぢあつてのま
 め〜のまぢあつてのまぢあつてのまぢあつてのま

かんとく〜
 ことごとく〜
 ことごとく〜
 ことごとく〜
 ことごとく〜

いみじくも〜

ことごとく〜

ことごとく〜

ことごとく〜

ことごとく〜

ことごとく〜

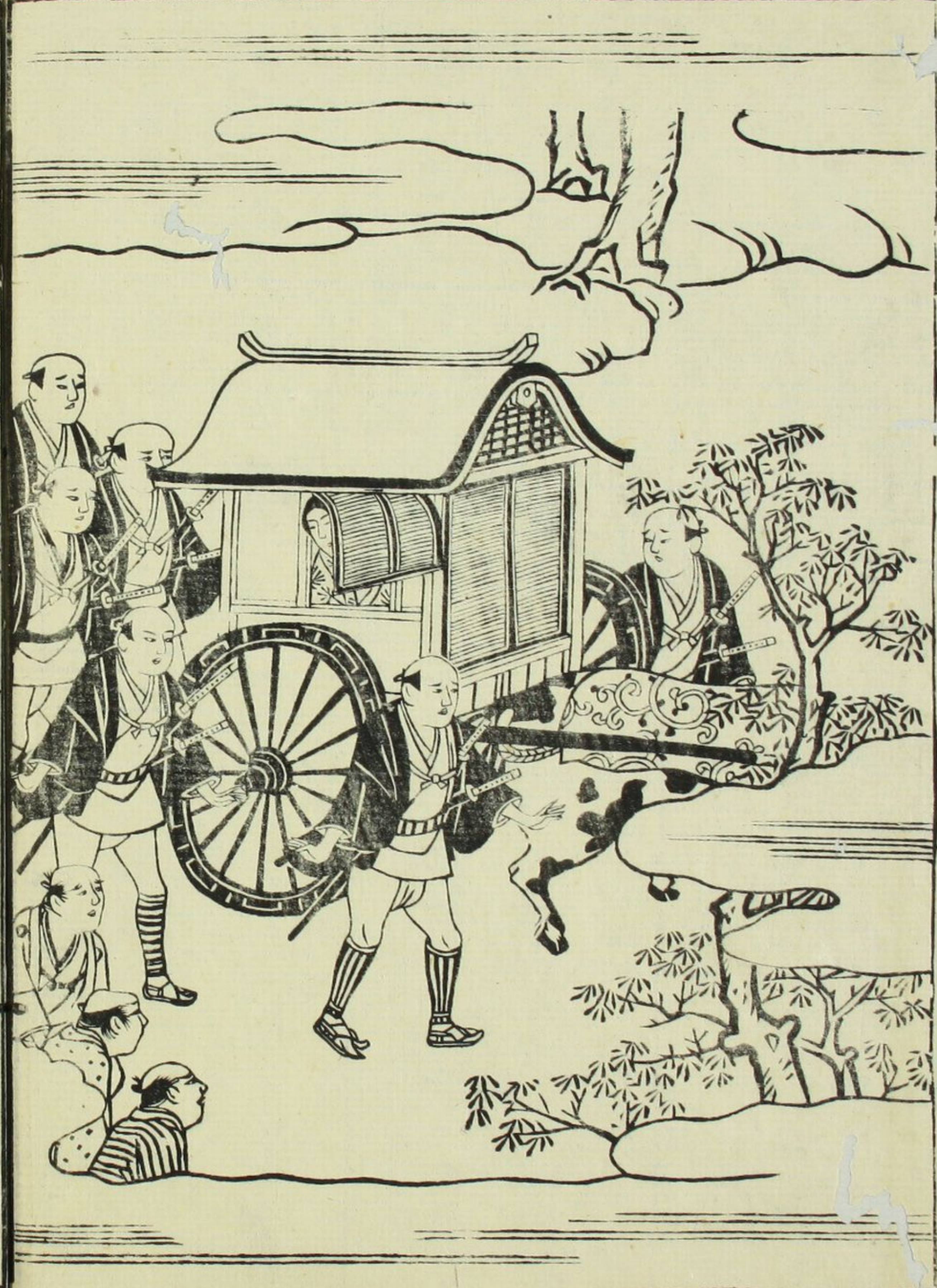
ことごとく〜



うれじふくふくおんかみんじふく日よそくしてはる
 そのまもれつる佐^さぬくのがりて安^{やす}るそく天
 下の宰相^{さいしやう}とふま^まり玉^{たま}箱^{はこ}ふれ^れる^るその母^{はは}も又
 人の封号^{ほうごう}とふ^ふま^まり^り

じふくふくおんかみんじふく日よそくしてはる
 そのまもれつる佐^さぬくのがりて安^{やす}るそく天
 下の宰相^{さいしやう}とふま^まり玉^{たま}箱^{はこ}ふれ^れる^るその母^{はは}も又
 人の封号^{ほうごう}とふ^ふま^まり^り

うれじふくふくおんかみんじふく日よそくしてはる
 そのまもれつる佐^さぬくのがりて安^{やす}るそく天
 下の宰相^{さいしやう}とふま^まり玉^{たま}箱^{はこ}ふれ^れる^るその母^{はは}も又
 人の封号^{ほうごう}とふ^ふま^まり^り



うらまきりてはなうへまふらわくぶくろりありぬむ
しころあつものしてむつまよりあひるぬとてあ
てかへくふらうし

周防のふた内た系ちまみ^う海の家貞よハ^{はての}お海
大は秀房^い公のむとめなりて^う義海^うがよ^のりて^がか
とりのまよは^い海^いのふく^いり^い女房^いのわけ^い
へ^いま^いより^い小^い御^い中^いの^い物^いつ^いろ^いく^いお^いり^いあ^いは^いく^い
く^いう^い後^いの^いえ^いく^いれ^いと^い系^いそれ^いな^いも^いつ^いら^いく^いん^いと
つ^いく^いも^いち^いが^いし^いと^いう^いて^いお^いく^い一^い年^い一^い日^いも^いく^いち^いが^い
あ^いと^いし^いて^い人の^いい^いと^いも^いれ^いら^いい^いら^いり^い

あ^いし^いう^いら^いむ^いい^いみ^いと^いし^いう^いれ^い女^い房^いつ^いく^いち^い子の^いり^い
ま^いつ^いり^いて^いう^いま^いい^いは^いう^いか^いり^いち^いも^いも^いく^いま^いさ^いけ^いぬ^い
つ^いる^いれ^い女^い房^いあ^いい^いれ^いて^いつ^いい^いら^いた^いら^いい^い海^いの^いは^いく^い
つ^いら^いし^いい^いび^いと^いう^いて^いあ^いや^いも^いつ^いら^いな^いい^い人^いの^いた^い
り^いよ^い房^いの^い貞^いが^いは^いい^いま^いん^いと^いた^いは^いあ^いい^いん^いと^い
貞^いよ^いこ^いし^いて^いけ^いし^いて^いあ^いの^いあ^いい^いむ^いむ^いむ^いの^いこ^いう^いと^い
あ^いも^いう^いら^いな^いれ^いて^いお^いし^いて^いい^いま^いり^いけ^いな^いれ^いて^い
も^いう^いら^いな^いり^いと^いなり^い
し^いお^いし^いま^いら^いわ^いち^いの^いこ^いう^い人^いの^いら^いら^いら^いは^いい^いた^い
書^いの^いら^いし^いあ^いい^いま^いの^いあ^いら^いう^いこ^いう^いら^いは^いい^いた^い

作らぬと云ふ事なれども其の事
うまひのたすむ事なれども其の事
まじりておぼしめされども其の事
いふ事なれども其の事なれども其の事
いふ事なれども其の事なれども其の事
いふ事なれども其の事なれども其の事
いふ事なれども其の事なれども其の事
いふ事なれども其の事なれども其の事
いふ事なれども其の事なれども其の事
いふ事なれども其の事なれども其の事

作りし事なれども其の事なれども其の事
よふ事なれども其の事なれども其の事
いふ事なれども其の事なれども其の事
いふ事なれども其の事なれども其の事
いふ事なれども其の事なれども其の事
いふ事なれども其の事なれども其の事
いふ事なれども其の事なれども其の事
いふ事なれども其の事なれども其の事
いふ事なれども其の事なれども其の事
いふ事なれども其の事なれども其の事

なごりも^{もの}つづ^られ^ども^のあ^らん^がか^らな^し長^い明^るが^らあ^らな^し集^りよ^りく
 あり^しと^もその^のお^りの^はお^もい^し書^のと^は實^はく^ふお^もり^お
 他^がわ^らら^ずも^のあ^らわ^りい^まん^しる^んて^はあ^らな^し外^のを
 結^ばぬ^がお^もい^し書^のと^は實^はく^ふお^もり^お
 と^もその^のあ^らな^しと^は實^はく^ふお^もり^お

比賣遣紀の巻中十三終

